

8

脳トレサロン井野



8 取手市

開催日及び開催頻度	
月2回(原則第1・3金曜日) 10:00~11:30	
開催拠点	井野公民館
代表者氏名	渡部 康
1回の参加人数	ボランティアを含め20名
参加費 (1人1回あたり)	0円
広報方法	掲示板(随時)



開催地域の様子



- 取手市は、首都圏への通勤の足掛かりの地域としてUR都市機構の戸頭団地や井野団地等の大規模団地を擁しています。会場のある井野公民館は、井野団地の一角に位置し、約2,000戸の居住者の活動の拠点となっています。
- 高齢化率は市の平均35%を上回っており、サークル活動への一定の需要は認められるものの、PRの効果は顕著に認められません。

サロンに取り組む動機・サロンの将来像



- 高齢化が進む中で、高齢者の居場所の確保は生きいきとした健康な生活を営む上で欠かせないものです。一日中家に閉じこもり、身体を動かさず家族以外に話す相手がなく、一日何人の人と何分話を交わしたでしょうか？現実問題としてまますることだと思います。
- サロンに行けば、誰かに会える・お話ができる・楽しいことがある、そのような出会いの場所を確保・提供する必要がある

- 高齢者が多い・多くなったと言われる中、参加者・リーダーとも掛け持ちで活動している方々が結構目立ちます。活発に活動する人は多方面で活動しているのが現状で、家で過ごすことの多い方を掘り起こす必要があります。
- 公民館の掲示板や社会福祉協議会の周知物に募集の知らせを掲載したり、リーダーや参加者の口コミでお友達を誘ってもらう方法を取っていますが、なかなか思うように輪が広がらない現状にあります。

サロン運営上の協力者



- 取手市社会福祉協議会

運営費の確保方法



- 参加者からの会費は集めておらず、取手市社会福祉協議会からの助成金が唯一の資金源です。毎月活動があれば一月当た

り1,000円で年間12,000円となりますが、令和3年4・5月は新型コロナ感染防止のため活動が出来ない状況で、大きな支出も無かった反面第1四半期の収入は1,000円で年2回程度のお楽しみ会を計画していましたが、現在のところ年末の1回になっています。

- レクリエーションには、長く使えるような遊具を購入したいと思いますが、予算・保管場所です苦慮しています。

連携先・協働先



- 取手市の社会福祉協議会主催で「ふれあい・いきいき連絡会」が年2回程度開催されており、約35サークルの代表が出席します。その中で意見交換の場が設けられているので、他のサークルの活動状況を聞くことができ大変参考になっています。この意見交換の場は、具体的な苦勞話を聞くことができ今後も続けて欲しい施策です。

サロンのウリ



- 取手市の社会福祉協議会主催で月1回勉強会を開催して頂いているので、習ったことを自己が参加するサロンに戻って還元できるので、出来る限り参加しています。

コロナ禍でのサロン活動について



- 活動の制限を受けている中で、リーダー限りの連絡網を作成して各リーダーからの参加者への「中止・開催」の連絡体制を整備しています。
- 長期に中止になっている際は、電話による体調伺いやカリキュラムの案内をして、自宅学習や継続意欲の維持を推奨しています。
- 公民館を会場にしており、入館時の手指の消毒及び検温、マスク着用、換気の配慮等基本的な感染防止措置を励行しています。また、終了時には使用した椅子や机の消毒を励行しています。
- コロナ禍以前は、ファイルにしたテキストを毎回貸出使用していましたが、感染

防止の観点からこれを取りやめたため、各リーダーが工夫を凝らしホワイトボードに板書したり、手作りのペーパーやポスターを掲出して教材としていることが苦勞しているところです。

- 3密の制限を受け、カリキュラムのレクリエーションは、主にゲームや手指、足の器用体操風なものを実施しており、思うように心弾むレクには遠いような気がします。
- 参加者の歌についても、マスク着用で大きな声を出さない制限を受けるとともに楽しむには少し距離を感じます。
- 活動中の飲食は、水分補給の他は実施していません。

助成金の活用によりパワーアップした活動

- サロン活動で使える豆知識
- サロン活動の醍醐味

など、これからサロン活動を予定している方へのメッセージ



- 助成金は、主に平素の経費で購入できないレクリエーション用具を揃えたので、年末や年度末のお楽しみ会で今後安定したプログラムに組み入れることができます。特に、多人数で盛り上がるのはビンゴで、予算の中から全員に行き渡る菓子類を袋詰めしたり、季節の観葉植物を提供して心から喜んでいただいています。
- 不公平感をなくすため、商品価格は均一で、ビンゴの当選者順は選ぶ順番を決める程度です。
- 教材は、社会福祉協議会のテキストファイルを基本に「1) ベース、2) 音読、3) 計算、4) レクリエーション、5) 歌」をあらかじめリーダーが輪番で行えるよう当番を年間分作成しています。
- リーダーの欠席等は、全員使用しているラインを使用して意思疎通を図っています。
- 「楽しかったわ!」「次回もまた来ます」等、帰りがけにリーダーに声を頂いた時には、「喜んで下さって良かった」とスタッフ一同実感しています。